

耳の聞こえない人に
どう伝えればいいの？

車椅子の人は
階段どうするの？

白い杖でほんとに
障害物わかるの？

自閉症の人を
どう誘導すれば？

そもそも、障害者って
言い方、どうなの？

わたしたちに 出来ること？

～障害者と健常者の歩む生活～

2016年4月「障害者差別解消法」(障害を理由とする差別の解消に関する法律)の施行を受け、健常者は障害者をどのように理解し、どのような生活を目指すべきなのかを考える機会とします。

【鑑賞サポート】

*手話通訳 *要訳筆記 *視覚情報案内

などあります。

※「視覚情報案内」は、視覚障害者向けに狂言公演の視覚情報をヘッドホンから音声にてお伝えします。台数には限りがありますので(15台)、可能な方は携帯FMラジオやイヤホンをお持ち下さい。当日プログラムに周波数を明記します。

第1部

ゲスト公演
大蔵流茂山家狂言
演目:『月見座頭』

盲目の男と通りすがりの男が意気投合して月見をするが、
男が急変し盲目の男を虐める物語。狂言屈指の名作とさ
れている。



シテ:座頭
茂山 千五郎
大蔵流茂山千五郎家
13世当主



アド:上京の男
茂山 正邦
茂山千五郎長男

第2部

トークセッション

『これから私たちの
社会にできること』

■『いま障害者環境に
何が求められているか』

～ピッグアイ運営から見えること～

話:国際障害者センター(ピッグアイ)事業プロデューサー

鈴木 京子

聞き手:脳科学者

茂木 健一郎

■『私たちの声を聞いて』

様々な障害をもつた方々や関
係者の方からお話を聞きます。

■『これから私たちの
社会にできること』

フリートーク形式で茂木健一郎
さん、鈴木京子さんを中心で語
っていただきます。



平成
28年

5/5 (木・祝)
14:30開場
15:00開演

全席
自由

2,000円

※未就学児の入場不可(保育ルームは公演1週間前までに予約 一人500円)

会場 上越文化会館大ホール

※他に、中ホールでは特別支援学校や各施設の紹介パネル、筝曲家・澤村祐司さんのミニライブ＆茂木健一郎さんとのトークを開催。また、市民サロンでは就労支援施設から出店などもございます。

チケットは市内各プレイガイドにて
2/14(日)より発売開始いたします

■プレイガイド:上越文化会館 025-522-8800
マルケー旅行センター・エルマール店／アコーレ・サービスカウンター／リージョンプラザ上越
／上越市民プラザ／ニ葉楽器／多田金レコード店／ローソンチケット(Lコード:35093)

■主催:上越文化会館 ■後援:上越市・上越市社会福祉協議会・上越市心身障害者福祉団体連合会

いくつご存知ですか?
それぞれの名称や概要を
公演当日に貼り出します。



出演者プロフィール



茂山 千五郎

4歳の時『狂言以呂波』のシテにて初舞台、20歳で『釣狐』を披く。1976年、自分達の勉強の場であると同時に、狂言界の活性化をめざし新しい世代の観客の掘り起こしをねらった「花形狂言会」を発足。弟・眞吾、従兄弟・あきら、弟・千三郎(1980年入会)と共に主宰する。古典狂言のほか、「木鳴るし」(木下順二作)、SF狂言「狐と宇宙人」(小松左京作)、「死神」(帆足正規作)、千年振りの復曲「婆娑求」(織田正吉作)をはじめとする数々の新作狂言に取り組む。東京国立能楽堂での復曲「麻生」では、父・千作(当時・千五郎)と共に演、舞台上で髪を結う珍しい演技をみせた。ヨーロッパ・アメリカ・東南アジア等海外公演にも多数参加。

現在は七五三・あきらと共に、桂米朝一門を巻込み『お米とお豆腐』を立ち上げ、新たな試みに挑戦中。ダイナミックでユーモラス、且つ繊細という深みのある芸には定評があり、茂山家の主軸として年間600回にものぼる舞台をふんでる。また、平成17年の還暦記念公演では、秘曲『釣狐』を全国で上演し喝采を得た。



茂山 正邦

4歳の時に『以呂波』のシテにて初舞台。その後『釣狐』『花子』『狸腹鼓』を披く。1993年父たちが主催する花形狂言会に入会。また東京に於いて『狂言小劇場』を年4回の公演を約10年続けたり、1997年ライブハウスで狂言会を催すという、若者らしい発想で狂言を一度も見たことのない観客の動員に成功してきた。その後、「心・技・体・教育的古典狂言推進準備研修修習の会=TOPPA!」また若手能楽師による能楽グループ「心味の会」を主催し、狂言のみならず能のファン開拓にも注ぐ。

最近では、2006年より「HANAGATA」を宗彦・茂・逸平・壱司と共に再開。企画製作そして演出までを自分たちで行う「HANAGATA」を通して、狂言の魅力を存分に味わっていただこうことを目的として活動している。



鈴木 京子

1997年に住友信託銀行(現三井住友信託銀行)を退社。1999年に舞台・イベント企画制作会社 リアライズ設立。2000年、当年オープンした国際障害者交流センタービッグ・アイで障害の有無に関らず誰もが参加できる舞台芸術や鑑賞サポート付公演などの企画や制作に携わる。

2011年にリアライズ退社後、国際障害者交流センター・ビッグ・アイ事業プロデューサーに就任する。国内外の障害者や健常者とともに演じるミュージカル公演やワークショップ、アートコンクール、展覧会などのプロデュースをおこなう傍ら、舞台鑑賞支援のコーディネート、普及活動に携わる。著書に『インクルーシブシアターを目指して(ビレッジプレス)』がある。



茂木 健一郎

脳科学者。ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー。1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部・法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現職。

主な著書に『脳とクオリア』(日経サイエンス社)、『生きて死ぬ私』(篠山書店)、『心を生みだす脳のシステム』(NHK出版)、『意識とはなにか<私>を生成する脳』(ちくま新書)、『脳内現象』(NHK出版)、『脳と仮想』(新潮社)、『脳と創造性』(PHP研究所)、『スルメを見てイカがわかるか!』(角川書店)、養老孟司氏との共著)、『脳の中の小さな神々』(柏書房・歌田明宏氏との共著)、『脳整理法』(ちくま新書)、『クオリア降臨』(文藝春秋)、ほか多数。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」「感覚の持つ質感」をキーワードとして脳と心の関係を研究するとともに、文芸評論、美術評論にも取り組んでいる。2005年、『脳と仮想』で、第四回小林秀雄賞を受賞。2009年、『今、ここからすべての場所へ』で第12回桑原武夫学芸賞を受賞。2006年1月から2010年3月までNHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』にメインパーソナリティーとして出演のほか、『世界一受けたい授業』(日本テレビ)、『ザ・ベストハウス123』(フジテレビ)、など多数のテレビやラジオ番組で活躍している。

2012年は、小川未明の生誕130年記念公演(上越文化会館)に出演。

【鑑賞イベントもお楽しみ下さい!】

◆特別支援学校や各施設の紹介パネル展示

5/3(火・祝)~5/5(木・祝) 場所/中ホール (入場無料)
※各日、9:00~17:00 最終日は15:00まで

◆就労支援施設の製品販売

5/5(木・祝)13:00~15:00 場所/市民サロン

◆箏曲家・澤村祐司 ミニライブ&茂木健一郎とのトークショー

5/5(木・祝)13:30~14:20 場所/中ホール (入場無料)



澤村 祐司

1981年3月1日東京都出身。全盲。生田流琴三絃を、宮城社大師範 金津千重子に師事。

東京藝術大学音楽学部邦楽科を経て、同大学院修士課程修了。伝統的な古典曲(地唄)などの演奏をはじめ、作曲や編曲にも取り組んでいる。「第2回 八橋検査日本音楽コンクール」において八橋検査賞受賞。「第19回くまもと全国邦楽コンクール」において優秀賞受賞。

座席エリアご案内
鑑賞サポート

